

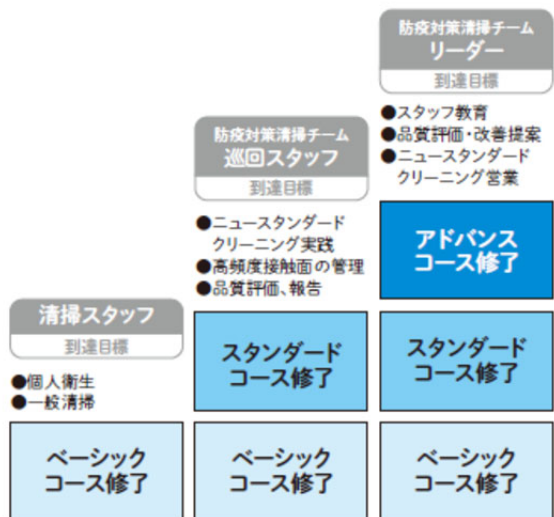
2020年12月1日  
イオンディライト株式会社  
(証券コード 9787)

防疫対策を組み入れた清掃新基準「ニュースタANDARDクリーニング」  
**1,000名を越える防疫対策清掃の専門家を育成**

イオンディライト株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長兼社長執行役員 グループCEO：濱田和成、以下「当社」）は、防疫対策を組み入れた「ニュースタANDARD（新基準）クリーニング」※1を構築し、2020年9月より、サービスの提供を拡大してまいりました。並行して、ニュースタANDARDクリーニングの担い手となる防疫対策清掃の専門家を育成すべく、独自の教育プログラムの履修を促進。2020年11月30日現在で共にサービスを提供する全国の協力会社のスタッフを含めた計1,100名が同プログラムのスタンダードコースを修了し、感染対策を行ううえで重要となる高頻度接触面の管理や品質評価を実施できる知識と技術を習得いたしました。

※1「ニュースタANDARD（新基準）クリーニング」の詳細については、2020年8月31日付「ウィズコロナ時代の新たな清掃基準でサービスを開始」、並びに本紙 p.3（参考）をご参照ください。

**【ニュースタANDARDクリーニングの教育プログラム】**



**アドバンスコースについては現在、プログラムを開発中**

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、施設に求められる「安全・安心」の基準が変化する中、当社では、その基準を上回るサービスを提供するため、防疫対策を組み込んだ新たな清掃サービスとして「ニュースタANDARDクリーニング（以下、「NSC」）」を開発しました。NSCの提供にあたっては、作業者自身が自己防疫に努めることはもとより、感染防止に向けた正しい知識や手順を習得する必要があります。そのため、当社では、これまで病院向けに提供してきた独自の衛生清掃サービス※2により培ってきた知見や感染制御学における最新の研究動向を踏まえた独自の教育プログラムを作成。専門教育を履修したクリーンクルー（当社清掃スタッフの呼称）によって構成される「防疫対策清掃チーム」が、適切な資材の管理とマニュアルを遵守した清掃作業を実施することとしています。

同プログラムは、業務内容に応じて、3つのコースに分かれ、現在までに NSC の担い手となるスタンダードコース修了者が 1,100 名となりました。

※2 衛生清掃サービス・・・2014年度より提供を開始した病院向けの感染制御を組み入れた清掃サービス

## 【業務内容に応じた3つの教育コース】

### (1) ベーシックコース

自己防疫とNSC実施のために必要な最低限の作業と感染対策について学ぶコース。

### (2) スタンダードコース

高頻度接触面の管理や品質評価のできる人材を育成するためのコース。修了認定者は、防疫対策清掃の作業を実施できる資格を得る。契約先のご意向に合わせて防疫対策清掃チーム専用のユニフォームを着用し作業を実施。

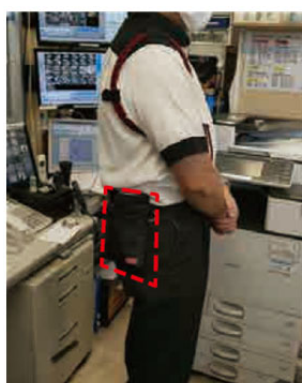
### (3) アドバンスコース（開発中）

品質評価やスタッフ教育、改善提案ができるレベルの人材を育成するコース。感染対策に対する詳細な知識を持ち、防疫感染対策チームのリーダーとなる。

## 【従業員携帯ハンドブックと防疫対策キット】

防疫や感染対策に関するイオンディライトグループとしての行動指針や正しい業務手順をまとめた「ADG防疫プロトコル」の重要箇所をピックアップしたA6サイズのハンドブックを作成。その他の防疫必需品と共に防疫対策キット（ポーチ）に入れて携帯。

※ハンドブックと防疫対策キットは12月中旬より順次配布予定



ポーチに入れるもの	
●	携帯アルコールスプレー
●	予備のマスク(包装が無い場合はポリ袋に入れます)
●	アルコールワイプ(除菌ウエットナップ)
●	使い捨て手袋
●	ポリ袋
●	イオンディライトグループ防疫プロトコル(ハンドブック版)

当社は、「お客さま、地域社会の『環境価値』を創造し続けます。」を経営理念に掲げるファシリティマネジメント企業として、引き続き、2020年6月30日にイオンが制定した「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」を踏まえた本サービスを清掃の新基準として提案してまいります。防疫対策を一時的な取り組みでなく継続的に実行していくことで、防疫が生活の一部となる社会を実現し、お客さま及び従業員の健康と生活を守り、地域社会に「安全・安心」な施設環境を提供してまいります。

— 本サービスに関するお問い合わせ先 —  
 イオンディライト株式会社 清掃事業本部  
 TEL：03-6840-5167 FAX：03-3524-8781

— 本リリースに関するお問い合わせ先 —  
 イオンディライト株式会社 ディライトコミュニケーション部  
 TEL：03-6840-5712 FAX：03-3524-8902

(参考) 2020年8月31日付「ウィズコロナ時代の新たな清掃基準でサービスを開始」より

【ニュースタンダード（新基準）クリーニングの概要】

	従来の清掃	ニュースタンダード（新基準） クリーニング
コンセプト	● 「美観」の維持・強化	● 「衛生性」の維持・強化
清掃の重点箇所	● 施設の平面部分 (床面、ガラス面など)	● 衛生的にリスクの高いところ (高頻度接触表面、水まわりなど)
スタッフに必要なスキル	● 清掃技術	● 感染対策の基礎知識
資機材	● 汚れ除去効果が高いもの	● 微生物の除去 ● 衛生的に管理しやすいもの
薬剤	● 洗浄・リンス性の高いもの	● 微生物を不活化できるもの (根拠が明確なもの)

① 平面視点から立面視点重視の仕様に変更

美観を維持する従来の平面清掃から、科学的根拠に基づき衛生性を維持・強化する立面清掃へと転換します。

**高頻度接触表面の感染予防**

利用者（ご来館のお客さまや店舗従業員）が頻繁に手を触れる高頻度接触表面（ドアノブ、エスカレーターの手すり、エレベーターのボタン、店内通路設置ソファなどお客さま用備品、など）の感染対策を強化。新型コロナウイルスに対する有効性が確認された洗剤と、マイクロファイバークロス（通常の綿雑巾と比較し汚染物質を繊維に取り込むことで汚れだけでなく細菌などの除去効果が高い）を使用し拭き取りを実施します。

② 予防清掃の見える化 「防疫対策清掃チーム」

e-Learning（イーラーニング）による所定の教育プログラムを履修し、感染対策の専門知識を身につけたクリーンクルーによって構成される防疫対策清掃チームが作業を実施します。



③ モニタリングによる品質定量化

細菌など、目には見えない清掃箇所の清潔度を「見える化」するため、有機物の総量を数値で表す技術「ATP（アデノシン三リン酸）検査<sup>※3</sup>」を用いて清潔度をモニタリング。清掃直後に検査を実施し、一定の水準に満たない場合は作業方法の見直しや教育で改善を図ります。

対象物の素材の違いによって有機物などの汚染物質付着の状況が異なるため、新たな清掃仕様の品質を定量化し、これらの根拠をもとに対象物の清掃頻度を設定。より品質の高い施設環境を提供します。



※3 ATP（アデノシン三リン酸）検査・・・すべての生物の細胞内に存在するATP（アデノシン三リン酸）を酵素などと組み合わせて発光させ、その発光量（Relative Light Unit；RLU）を測定する方法。RLU値が大きいくほど汚れが多いと判断される